

令和4年 10月14日 (金)

あさひの日だまり

NO.23

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～グリーンベルトを塗りました～

みなさんのお力をお借りして

8日(土)の10時からNTTの鉄塔横あたりから天竜川までの区間のグリーンベルトを塗りました。本校のPTAの皆さんが、町へ要望を出していただき、町が認めて下さって実現した事業とお聞きしました。きっと私もどこかの書面でそのいきさつを目にしたはずなのですが、恥ずかしながら見過ごしていたようです。当日の朝までその事情を知らずに、現場に行つてそのことを初めてお聞きしました。

当日は、前日の雨のため、道路の乾燥を待つて10:00からの作業となりました。多くの地域の皆さん。専門の業者の皆さん、PTAの皆さん。子どもたちが顔をそろえての作業となりました。

学校の職員も微力ながらお手伝いをさせてもらいました。こんなにたくさんの方たちが本校の子どもたちのために力を貸して下さいている場面を目にし、子どもたちは、多くの皆さんの心のこもった温かい手の中に包まれるように守られているんだなと実感いたしました。

グリーンベルトを引く予定の場所には事前に業者さんが真っすぐに目安のラインを引いてくださっていました。そして、ほうきにペンキ、ローラーもすべて用意して下さいました。バケツの砂は、ペンキを塗った後に薄くまくことで、滑り止めの役目を果たすということも教えていただきました。

まずは、業者の方が、講習をして下さり、8つの班に分かれて作業を始めました。デコボコの道にペンキを流し込

んだり、はみ出ないように気を付けたりしながら引いていきました。初めての経験でしたが、今まではグリーンベルトが引かれた道路を通つても「道路わきに緑色の帯が引かれているなあ」くらいの意識しかありませんでしたが、自分で実際にペンキで線を引いていくと、ここを通る子どもたちの姿が目につかなくて、緑の帯に「この上を歩く子どもたちのことをどうぞ守ってください」と自然に願いを込めていました。そして、この緑の帯にはたくさんの人たちの思いと願いが込められているということも実感として感じられて、この日を境に、車で走っていても緑の帯に意識が自然にむくようになりました。子どもたちのために力をお貸しいただいた皆様に心から感謝申し上げます。そして、作業へのご参加本当にご苦労様でした。

友達と一緒に登下校では、どうしても横に広がって子どもたちは歩きます。車道にはみ出て車と接触しないかが心配です。「あそこは狭いからあそこを歩く時は必ず白線の外を歩くんだよ」とお子様の通学路を思い起こし

ていただいて、今一度具体的に注意喚起をしていただけたら幸いです。

～音楽会のステージ練習を参観していただきました～

ご来校ありがとうございました

13日(木)と14日(金)は音楽会のステージ練習の参観日でした。2日間で本当にたくさんのご家庭の皆さんに参観していただきました。ご来校に心から感謝いたします。

ご兄弟がおられるために、何度かに分けて体育館へ足を運んでくださる保護者の方。仕事着のままでかけつけてく





ださったり、途中まで参観して駆け足で仕事場へ戻られたりする保護者の方。来校のお礼をする子供たちに温かな拍手を送って下さる保護者の皆様。そのような保護者の皆様の姿を見ると、子どもたちを本当に大切に育んで下さっている家庭の様子が本当によく感じられました。

ある担任の先生に「こういう参観方法も、1時間ゆっくり観ていただけていいですね」とお話したら、その先生から「今日は休み明けで、演奏もいつものようにはできず、残念な気持ちもあります。本当は最後のステージで最後まで頑張った子どもたちの様子を見ていただければよいのですが」という

ようなお話をしてもらいました。「確かにそうだな」と思いながら「最後の姿はDVDで観てもらえますから」という先生の言葉に「そうですね」とお返ししました。

14日の朝一番の練習は、きらめきとかがやき学級の子どもたちの練習でした。1時間目の練習のために体育館で控えている学年の児童と、保護者の皆さんの前で練習でした。近くで見る子どもたちの表情からは、いつになく緊張している様子がうかがえました。少人数でのステージです、なおさら緊張感が高まります。そんな中、子どもたちは本当によく頑張りました。一人で歌う場面などもいつもと同じように大きな声で歌いました。しかも、前回のステージ練習よりも、リズムがちゃんと取れて上達していました。子どもたちは私たちが気が付かない秘めた力を必ず持っています。それは、すべての子どもたちに共通しています。今回の音楽会を通して「私ってこんなことができるんだ!」という新しい自分との出会いができれば、本当に素敵な音楽会になると思います。そんな音楽会になることを心から祈っています。

～5年生が稲刈りをしました～

ご協力いただいた皆様に感謝いたします

先週の3日(月)に5年生が、地域の方のお力を借りて育ててきたもち米の稲刈りを行いました。田んぼに駆け付けたときには、すでに刈り取りが終わった後で、子どもたちは、田んぼの面倒を見て下さっている方や保護者の方に教わりながら一生懸命に刈り取った稲を束にしていました。このあたりでは稲を乾かす棒のことを「はぜ」と言うのでしょうか「はぞ」と言うのでしょうか、場所によって呼び方が変わるそうです。私の住んでいるところでは確か「はぞ」と言っていたように思います。その「はぞ」も、お世話に世話になっている方の手によって準備されていました。

実際にこういう体験をさせてもらうことで、子どもたちは、手で刈り取るときの稲の音や感触。刈り取りをしている田んぼの匂い。田植えの時と稲刈りの時の田んぼの様子の違い。刈り取ったばかりのしっとりした稲の束と、しばらく乾かした後のわらの感じの違いなど、実際に体験してみなければ知ることのできない貴重な経験をさせてもらっています。こうした経験を通して、普段は遠い存在の「稲」が次第に自分との距離を縮め、大切な存在の「稲」に代わっていくのだと思います。毎日口にしているお米を、「大切なもの」と感じる感性もこうした経験の中から生まれてくると思います。

ご協力いただいている地域の方、保護者の皆様本当にありがとうございました。そして、これからも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

